

滋賀大学の 島田 貴仁先生の 解説



今回は防犯での データサイエンスの活用について紹介します

犯罪には、起こりやすい場所や時間がある程度決まっているものがあります。警察は、これまでに起きた犯罪の時間や場所などのたくさんのデータを調べて、どこで、いつ犯罪が起きやすいかを予測しています。こうしたデータを使って、犯罪を防いだり、パトロールを強化したりと、防犯のためにデータサイエンスが使われています。

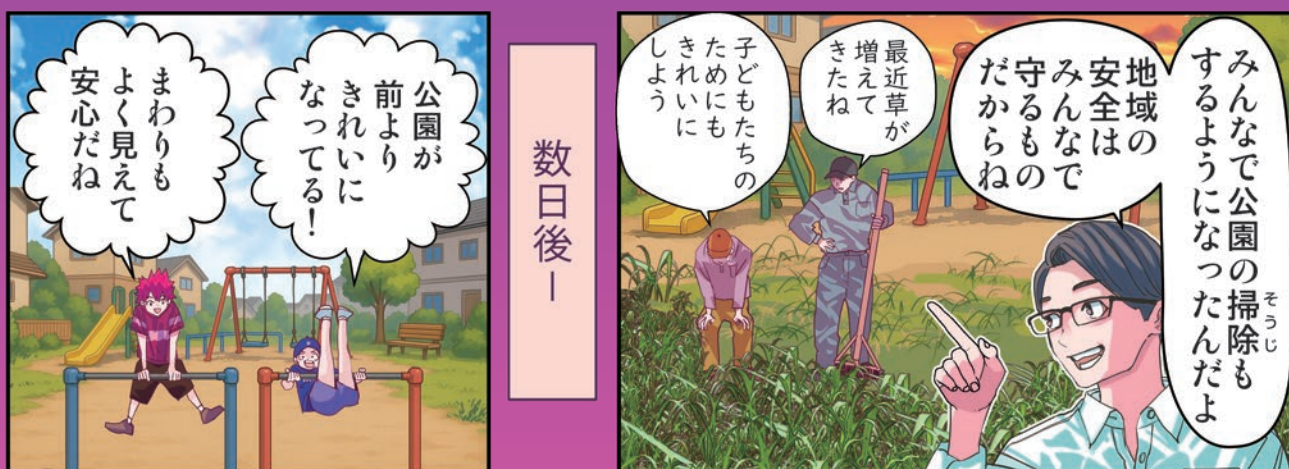
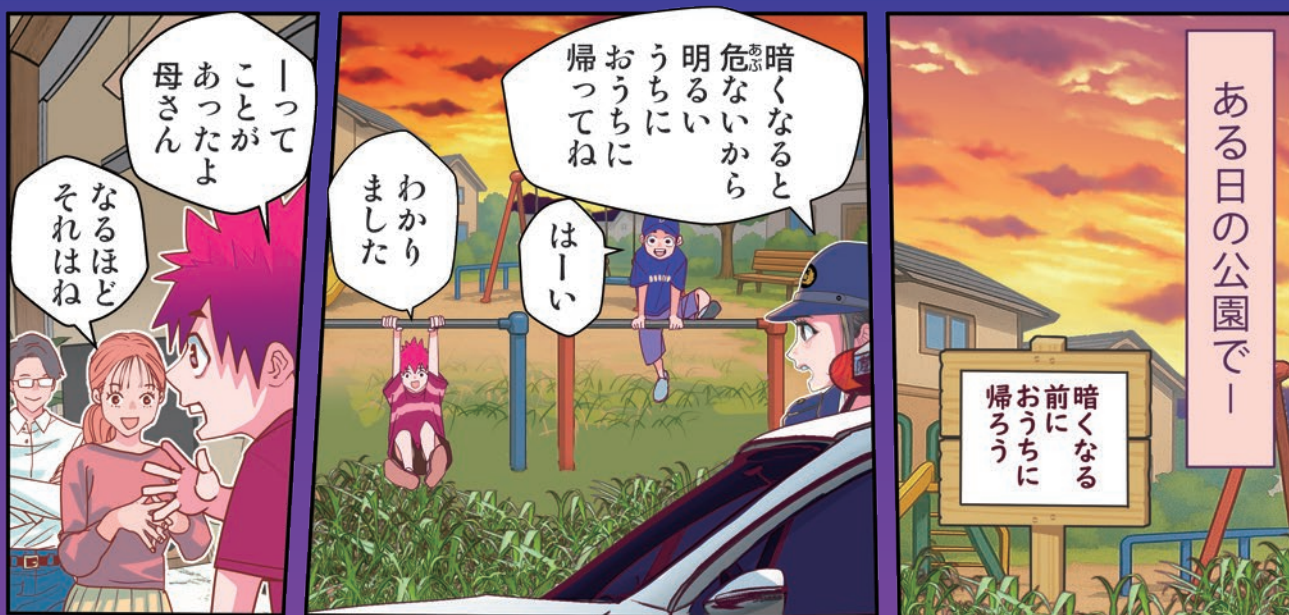
地域の取り組みに 予測情報を活用

地域の人たちがごみ拾いや草刈りをするなど、事件が起きにくい環境をつくるための活動も行われています。

京都府では、犯罪が起きやすい場所を予測する仕組みを使って、地域全体の防犯意識を高める取り組みを行っています。この仕組みで予測された場所を、大学生がジョギングしながら見て回るパトロールも行われていて、地域全体で防犯に取り組んでいます。

データサイエンスとは？

大量の情報やデータを分析して役に立つ情報を得たり、将来の予測を立てたりする研究のことです。



監修：島田 貴仁(滋賀大学データサイエンス学部教授)

制作：滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター、近江テック・アカデミー

マンガ：岡本 圭一郎